

研究計画概要

助成年度・種別	2025年度 一般研究助成
研究代表者	村山 拓
所 属	東京学芸大学
研究テーマ	思春期・青年期の障害・疾患及びそのリスクのある子どもの健康及び安全に関する意識とメディア接触経験との関連に関する研究
研究計画概要	本研究では、障害や疾患、あるいはその可能性のある思春期・青年期の子どもの生活、学習におけるメディア接触と、その情報収集、学習の実態と発達面での影響について、英語圏各国との比較研究も含めて探究することをねらいとする。学校や学校外での社会活動において、対人接触による情報収集だけでなく、メディアを通じた情報収集の機会が急増している。若年者の情報収集が、インターネット等を通じたものに移行していることが推測されている。中には、若年者が市販薬の情報をインターネットを通して収集し、オーバードーズ(市販薬乱用)や摂食障害(過食、拒食等)への影響拡大などが指摘されている。生徒等の実態把握及び、要支援とは見なされないながらも、潜在的リスクのある若年者への支援のための理論的な知見を得ることを目的としている。 それらの目的を達成するために、以下の作業課題を予定している。まず、国内の中学・高校生について、メンタル、フィジカルいずれかの面での健康に課題や不安のある子どもの、生活・学習面での困難や不安、生活スタイルやメディア接触経験についての調査を行う。また、比較調査として、マサチューセッツ州、ニューヨーク州を中心とした教育・保健・福祉政策をふまえ、子どものメディア接触のコントロールや、ドラッグ、妊娠、メンタルヘルス等のヘルス・リテラシー教育や、ライフ・スキル教育の目的と内容を明らかにする。例えば、「健康」や「安全」など、従来から学校教育カリキュラムに導入されている例やガイドライン、介入プログラムの内容や方法、潜在的リスクのある若年者のスクリーニング等の内容を検討する。 それらの調査研究を通して、思春期、青年期の中学生、高校生について、オーバードーズ等の健康管理や安全管理についての意識の内容や特徴、そしてそれらに関連するメディア接触経験の特徴がどのように関連するかを検討しようとするものである。それらを通して、健康や安全についての教育や支援、時に介入の特徴や困難さの解明に資する知見が得られると考えられる。

選考委員からの コメント	メディア・ネット情報と青少年期の安全意識の研究は、現在の安心安全研究にとって重要である。申請者の専門性は高く、大学で関連講座に所属し、国内外の学会で精力的に研究成果を発表している。研究計画の具体性がやや弱い、中学校、高校との協力関係があり、中高生に対する調査が可能であるというのは貴重であると評価された。
-------------------------	---